



日本神話のふるさと高千穂郷の世界農業遺産、棚田。

Local
Philosophy
1

宮崎県高千穂町・五ヶ瀬町一高千穂高校・五ヶ瀬中等教育学校

世界農業遺産の価値を

受け継ぐための

学びをデザインする。

取材・文／金井文宏（本誌）

森林に囲まれ平地が少ない宮崎県北部の高千穂郷・椎葉山地域（高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町、諸塚村、椎葉村）では、山腹水路のある棚田や国内唯一の焼畑など独特の農業が営まれています。また、広葉樹林・照葉樹林がモザイクのように鮮やかな景観を生み出す林業や、少数頭の牛を家族同様に育てる牧畜業も営まれてきました。この山間地では集落ごとに神楽を奉納することで互いの絆を深めてきました。

2015年には、伝統的な農業・農法、生物多様性が守られた土地利用、農村文化・農村景観などを「地域システム」として一体的に維持保全していることが評価され、高千穂郷・椎葉山の山間地農林業複合システムとして世界農業遺産（GIAHS※）に認定されました。この遺産を次世代に継承すべく、世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域活性化協議

会と地元の高千穂高校は、県立五ヶ瀬中等教育学校などと連携し「GIAHSアカデミー」を開設し、地域探求学習に取り組んでいます。



高校生と海外大生たちがグループワークで語り合う。

GIAHSアカデミーを運営するNPO法人グローバルアカデミーは、2019年7月、「GIAHSスタディーツアー」を開催しました。高千穂高校と五ヶ瀬中等教育学校の生徒が、グローバルに活躍する日本人大学生とともに学び、地域の魅力や課題を発見・発信していくためのアクティブラーニング型学習プログラムです。これを例に、地域探求学習の進め方やあるべき姿について考えてみたいと思います。

GIAHSスタディツアーの流れ

世界農業遺産の現場で地域の魅力と課題を学び、地元高校生が県外・海外の大学生と未来を描く。

1日目

〔午後〕

●フィールドワーク①

柳田国男が探求した。山の民の文化、椎葉村見学（椎葉民俗芸能博物館、鶴富屋敷—平家落人伝説）

●フィールドワーク②

夜狩内集落が復活させた焼畑の見学



夜狩内集落の焼畑の様子。

2日目

〔午前〕

●フィールドワーク③

霧立越えのガイド・秋本浩氏の講話
「交易道と駄賃付け」

●地域理解のための講義

「森と人が育んできた原郷」

焼畑—縄文文化と、棚田—弥生文化

倉石寛先生（立命館大学）

〔午後〕

●フィールドワーク④

高千穂の山腹水路を作った先人の跡に学ぶ・棚田見学



地元高校生と海外・県外大学生たちの集合写真。



総延長500kmに及ぶ棚田の山腹水路。



高千穂の集落ごとに伝わる神楽を観る。



高千穂名物「かっぱ鶏」を作る。

●フィールドワーク⑤

高千穂神楽の鑑賞と担い手との交流

●フィールドワーク⑥

皆で作る高千穂名物「かっぱ鶏」

〔夜〕

●「留フェロ※」らじお

海外・国内大学の学びについて高校生から寄せられた質問に、生で答える

3日目

〔午前〕

●地元の若手のプレゼン

Uターンで活躍する若手に話を聞く

●ワークショップ

「28歳の自分を想像しよう」

〔午後〕

●発表会

「高校生が来年のGIAHSスタディツアーを企画する」

※海外留学中の日本人学生のNPO

参加した地元高校生の感想

- 最初は修学旅行のような気分で楽しもうと思っていた。しかし実際はこの恵まれた土地でしかできない体験が多くあった。海外・県外からの大学生と触れ合う中で、学術的に、この地域の良さや特徴を学ぶことができた。
- スタディツアーでの活動を通して、私は次第に地域に貢献したいと思うようになった。例えば、「多言語化により外国人旅行者を増やしたい」、「過疎化を食い止めた」と。過疎化の進行は、自分たちが育ってきた地域の文化・歴史・伝統が失われるということだからだ。
- スタディツアーは海外研修も超えるくらいのインパクトがあった！人生が変わった！
- 今回のスタディツアーで色々な人と話せて選択肢が広がった。

- 〔夜〕
- 地元高校生の自主企画
- 世界農業遺産とは？／神楽の飾り付けの意味と作り方／「がまだせ節」を踊る／哲学対話
- 大学生プレゼン①
- 「自分を主語にして考え、行動する」

世界農業遺産を地域探求学習のど真ん中に据える。



NPO 法人
グローカルアカデミー代表
田阪真之介さん

金井 まずは高千穂郷・椎葉山地域というG I A H Sの学びが、地元の高校のカリキュラムや課外活動に取り入れられた経緯を教えてください。

田阪 この地域を世界農業遺産として登録するための最終審査の英語プレゼンが、ローマのFAO（国際連合食糧農業機関）でありました。プレゼンの前半は県知事が、後半は五ヶ瀬中等教育学校の高校生・宮崎麻由香さんがすることになりました。私には宮崎さんのプレゼン指導をしてほしいという依頼がありました。次期にG I A H Sの内容にまで関わるようになりまし

た。というのも、世界農業遺産になった世界の多くの地域では、それを契機に観光ビジネスを始めるのですが、私は「高千穂では教育・教育人材に力を入れるべき」と考えたからです。棚田を潤す用水路も各地域に伝わる神楽もすばらしい教材で、世界農業遺産に登録されることにより、この地域の魅力や課題をしっかりと子どもたちに伝えられると思ったからです。

G I A H Sの事務局が置かれていた高千穂町役場総合政策室の室長の甲斐宗之さん（現高千穂町長）も担当の田崎友教さんも共感してくれました。私も行政の方と深く話したのは初めてで、コンサルというのではなく、高千穂の住民、当事者として取り組みました。**金井** 当時、田阪さんは五ヶ瀬中等教育学校のSGH（文科省指定のスーパーグローバルハイスクール）に関わっておられたのですね。

田阪 はい、主体は学校ですが、後方支援を行ってました。五ヶ瀬中等教育学校は県立の中高一貫校で、生徒は全県から集まり寮生活をしながら学んでいます。地元出身の生徒は少なく、G I A H Sを教育に取り入れるには、地元の高千穂高校の参画が必要と考えました。高千穂高校には卒業生である町役場の田崎さんに働きかけてもらい、G I A H Sアカデミーという有志の高校生が参加する活動を始めました（現在はクラブ活動に昇格）。

金井 世界農業遺産を教育に取り入れるとはどういうことでしょうか。

田阪 SGHのカリキュラムで地域を教材化して取り上げていましたが、G I A H S登録によりG I A H Sの内容そのものを教材とすることができました。高千穂高校でもG I A H Sで地域の魅力や課題を発見し、自信と誇りをもつことにより当事者意識を高められると考えたのです。

金井 それにより、単なる知識やスキルとは異なる、自ら意欲をもって学んでいく主体性が出てくるのですね。

田阪 この地域には、生き生きと営んでいる農家や、意欲をもって町の課題に取り組む役場の職員がいるのに、高校生との接点はほとんどありません。地域をテーマにした総合的な探究学習でその接点を作り、大人たちの本物の活動から学ぶのですが、世界農業遺産に登録されることにより、その学びがグローバルレベルで

普遍化され、学びが輝くのです。地域でプライドを持つて主体的に学ぶことにより、表現や思考力が鍛えられ、自分の進路についても深く考えるようになります。

金井 どのようなカリキュラムなのでしょう？

田阪 高千穂高校のG I A H Sアカデミーは課外活動として取り組んでいます。地域の農業を体験学習するとともにSNSで発信したり、小・中学校へ行って出前授業をしたりしています。また、宮崎大学でG I A H Sの意義について講義を受けたり、哲学が専門の梶谷真司東大教授に来てもらって、「哲学対話」を実施したりして、自分の言葉で表現して文章を書く練習もしています。G I A H S以外の別コンテンツでは、町の「まちなか案内所」において外国人への案内も行っています。

金井 五ヶ瀬中等教育学校ではSGHの指定期間が終了し、今年度以降の見通しはいかがですか。

田阪 SGHの次の段階の一つである「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」に認定されましたが、この認定の評価ポイントは、探究学習の内容と、それを推進するコンソーシアムを学校の団体と組めるかということです。

内容についてはG I A H Sを中心に据え、コンソーシアムは協議会（世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域活性化協議会）を中心に構成しました。さらに、この地域が世界農業遺産に登録されているので、地域の課題と世界の普遍的な課題とを連動して捉えるアカデミックな考え方もできるようになりました。

多くの学校では、探究学習の時間が受験勉強に取られて、中途半端になることが多いのですが、探究学習をやるなら徹底的に関わりないと、自分の生き方や進路に活きるものにはなりません。幸い大学入試でも難関校が少しずつ推薦・AO入試に重きを置くようになってきており、ますます五ヶ瀬中等教育学校や高千穂高校の取り組みが生きてくると考えています。

高千穂郷の未来を担う 高校生を育てたい。



高千穂町財政課
総合政策室 主事
田崎友教さん

金井 GIAHSスタディツアーにはどのような狙いがあったのでしょうか。

田崎 まずは地元高校生にGIAHSを知ってもらうことによりインナーブランディングを行い、彼らにシック・プライドと当事者意識を育むことを目的にしています。高千穂郷・椎葉山地域の当り前にある暮らしや見慣れている風景に、本物の価値があることに気づいてほしいと考えたのです。世界農業遺産をテーマに、高千穂高校ではGIAHSアカデミーという活動が立ち上がり、五ヶ瀬中等教育学校では授業カリキュラムに取り入れてもらっています。また、若い世代を対象に漫画を作ったり、町民向けのシンポジウムも開催したりしています。

金井 田崎さんは大学卒業後、東京で外資系企業にも勤めた後、高千穂町役場にUターン就職し、世界農業遺産登録を担当したそうですね。

田崎 高校を卒業し、町外に進学や就職をした後、高千穂町にUターンするということ意識している親や子どもは少ないと思います。私も小・中・高は高千穂町内ですが、当たり前のように福岡県の大学へ進学しました。在学中にオーストラリアやアメリカに留学した時、はじめて高千穂にはいい景色、いい暮らしがあるのだと気づき、「いつか戻ろう」と心に決めたのです。大学卒業後、とりあえず東京で就職しようと東京で4年間勤め、故郷を離れて10年後に高千穂へUターンしました。

金井 田崎さんは海外へ出てはじめて高千穂のよさがわかったと言われましたが、今回のスタディツアーに参加した地元高校生の感想はどうでしたか？

田崎 世界農業遺産を象徴するような場所、椎葉の焼畑や五ヶ瀬の森林、高千穂の棚田を訪れ、現地で地元の方々の話を聞き、「自分たちの住む場所はこんなにいい所だったんだ」と気づいてくれたようです。今回のスタディツアーには、海外留学をしている日本人学生5名と日本の大学に通う学生3名が参加し、地元高校生への触媒役になってもらいました。彼らがこの地の農業のあり方に面白さを感じ、地元の農家や講師の先生に次々と探求的な質問を投げかけることに驚き、「地元を見る視点が変わった」という留学生効果もありました。長野県伊那の限界集落出身の早稲田大学の学生は、農林業で暮らす集落で育ったので、高千穂との類似性や違いについて高校生と話し込んでいましたね。

金井 地元高校生とメンター役の学生がファミリーという名の小グループを作り、学習時間以外にも一緒に生活することで、高校生は大学生から色々なことを学べたようですね。地元高校では世界農業遺産を継承し、地域を変えていく人材を育てることを重視しています。地域の若い担い手の動きはどうなっていますか？

田崎 数年前に「宮崎フケモン（若者）会議」を開催し、ここ高千穂で県内の若者70〜80人が集まって宮崎の未来について話し合いました。高千穂町内では、私の他に東京でイタリアンのシェフをしていた佐藤翔平くん

も町役場に入り、現在はNPO法人の代表理事として「高千穂郷食べる通信」やSNSで高校生記者とともに情報発信してくれています。

金井 最後に、町役場での総合政策室でGIAHSに関わる田崎さんが描く地域の未来像について教えてくださいませんか？

田崎 地元の高校を核として、地域の価値がわかる人を育成する「人づくり」を土台とし、観光と農業を未来に向けた産業として育てるという構想を描いています。今回のGIAHSスタディツアーで試行した棚田ウォーキングや焼畑見学、集落農業を支えるコミュニティの祭りとしての神楽、そして農泊などを組み合わせた世界農業遺産のアグリツーリズムも効果的な手法だと考えています。

高千穂町の政策としては、集落の農家を連携して法人化する「集落営農」が重要と考えています。法人格の集落で農機を所有し、用水路を管理することで、耕作放棄地をとりまとめて農業を続けることができます。世界農業遺産の地域をサステイナブルにする取り組みです。現在、町内10の集落で、まずは集落の課題や理想像などを住民で共有するためのワークショップを行っており、私が住んでいる中川登地区では、地域で初めて集落営農法人「高千穂かわのぼり」が立ち上がりました。このような中山間地域での農業を持続可能なものにするには、皆で協力して農業をしていくことが必須だと思います。

地元高校生には、卒業後の出口である進学・就職に際して、高千穂の農業と観光をして暮らしの未来を担う中核が自分たちであり、主導役になって町の未来を創っていくのだと意識してもらいたい。地元高校のカリキュラムのど真ん中に、GIAHSがあったほしいというのはいささかのことなのです。